

## 2014 アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名 [ 海星学院高等学校 ] 担当教諭名 [ 山根 洋・宮崎 由佳・市川 栄作 ] ( 2年 73名 )

交流相手国 [ キルギス ]

海外学校名 [ Ishenali Arabaev Atndag school ] 担当教諭名 [ Sultanalieva Farida / 仲 由布子(JICA) ]

### ■実施教科・時間数について教えてください。

	教 科	単 元 名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	総合的な学習の時間	国際理解	20

### ■作品について教えてください。

題 (テーマ)	「ヒーロー・スポーツ・ファッション・宗教」
絵に込めたメッセージ	交流の中で、それぞれの国や学校・文化について発表しあい、多面的に理解を深めることこそが、平和な社会の実現において重要であると分かち合った。この絵を見た人に、異文化との出会いと協同の喜びが伝わることを願い、作製した。



### ■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手国の文化、言語に対する生徒の興味、関心が高まった。</li> <li>・英語を母国語としない者同士が英語を使って交流することで、生徒の教科への興味関心が高まった。</li> <li>・草の根レベルでも海外の高校との交流チャンネルが広がった。</li> <li>・強い達成感を味わい、生徒の自信につながった。</li> <li>・相手国の福祉の課題について理解を深め、相手国の学生にプレゼンを行なった。</li> </ul>	天災を意識したスケジュール設計

### ■アートマイルに取り組む前と比べて相手国や世界に対しての意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
『海外・国際社会・他国・世界といったものの外にいた「私」が、プログラムを通じて変わった。』(生徒感想文より)にもあるとおり、修学旅行(アメリカ)と組み合わせることで、世界観の変化・拡大が見られた。また、スカイプを重ねる度に、相手に喜んでもらう仕掛け作りを主体的に工夫する姿勢が見られるようになった。	特になし

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
自己紹介	8月～10月	・プロジェクト概要説明 ・ワークショップ:キルギスについて ・活動内容発表 ・役割分担、班編成(地域紹介作成班、学校紹介作成班、英語翻訳班、写真撮影班、スカイプ班、ユニバーサルデザイン調査班、美術班)	・7月上旬に教員のメール交流開始 ・希望調査をもとに班編成、各班からリーダーが選出され、修学旅行(9月)後のスカイプを前提に、活動開始。	総合
テーマ学習	11月	調査に関する各班が活動開始 ・テーマについて検討開始 ・11月中旬に日本側の学校紹介と動画をフォーラムにアップ。	・各班、活発に活動した。 ・11月上旬に相手側の学校紹介がフォーラムにアップされ、活動意欲が高まった。	総合
構図決定	12月	・11月下旬、スカイプ実施し、学校紹介・調べ学習の成果を発表し合う。 ・デザインのラフスケッチをフォーラムにアップ。	・ネット環境が厳しい中でもスカイプが大いに盛り上がり、制作にスムーズに移行できた。	総合
壁画制作	12月～3月	・制作の様子をフォーラムにアップ。無事完成。暴風雪にともなう臨時休校などで作業に遅れ、日本側発送は2/7、3/9にキルギス着。	・スカイプの成功で、美術班以外の生徒も制作に積極的に参加。	総合
鑑賞・振り返り	4月	新年度に鑑賞会実施。		総合

■学習目標(つけたい力)と成果(ついた力)について教えてください。

「目標」先生が指導に当たって重視したことをABCで記入(A:特に重視した B:重視した C:特に重視しなかった)

「成果」先生の手応え(5:とても身についた 4:身についた 3:どちらともいえない 2:あまり身につかなかった 1:身につかなかった)

学習目標・つけたい力	目標	成果	成果についてそう感じた場面・理由
自文化の理解	A	4	各テーマについて調べ、日本文化についての理解を深めた。また、発表を前提に日本の障がい者に対する取り組みを調べた。
異文化の理解	A	4	交流の振り返りにおいて、相手との「相違点」「共通点」の観点から整理し、多くの共通点に喜んだ。
コミュニケーション力(説明・共感・英語)	A	4	アメリカ修学旅行で培ったコミュニケーション能力を発揮したが、スカイプを通じ語学力の必要性を再確認していた。
情報活用能力(情報収集・発信)	A	4	限られた時間で、わかりやすく端的に物事を伝え、プロジェクトを進めることを意識し、相手の立場にたって準備することができた。
人間関係をつくる(学級内・交流相手)	A	5	全員が自分の役割ばかりでなく、周囲のサポートを自然に行い、人間関係が深まった。
協働する力(役割分担・協力)	A	4	学年団結の一助となり、協働する姿が頻繁に見られた。
学習を追究する意欲	B	4	プロジェクトの魅力が強い動機付けとなり、学習や活動全般に対して意欲的に取り組んだ。
表現力(伝えたいことを絵で表す)	B	4	例年に比べ、壁画の区分が複雑になったが、分業・協力するなかで、それぞれの箇所が納得のいく物になった。
作品を鑑賞する力	B	4	描き手の視点から、相手側の努力や気持ちを感じることができた。